

# 教育新報

新大教育学部同窓会  
 第172号  
 発行人 白 杵 勇 人  
 事務局 新潟大学 教育学部内  
 TEL(025)263-6760  
 印刷所 (株) 文 久 堂



## 母校の発展を願って

教育学部同窓会副会長 本間 正人

本年度も残りわずかとなりました。皆様のおかげで、本年度の活動を無事終えることができそうです。御理解と御協力に感謝申し上げます。

本年度の活動を振り返った時、特筆すべき点が三つあったと思っております。一つは、九月二十四日に開催された「同窓生の集い」です。講師として新潟大学全学教職支援センター特任教授の伊藤充様をお招きし「新潟の県民性、その歴史的系譜」と題した御講演をいただくことができました。新潟の県民性の特徴とそれができた背景を歴史や統計などの専門的な見地から分析・考察されたお話はとても興味深く、時間を忘れてしまうほどでした。示唆に富むお話から、県民性を考慮して教育政策を考え実施することの重要性とよりよい県民性を教育の力で創造していくことの大切さを教えていただきました。

した。同窓生が自らの見識を深め、人間的な幅と資質を高める講演会となったことに感謝申し上げます。

二つは、十月二十二日に開催された「新潟大学・全学同窓会交流会」です。講師として、路地連新潟メンバー・日和山五合目館長の野内隆裕様からおいでいただき「路地から進化するふるさと新潟」と題した御講演をお聞きすることができました。「プラタモリ」新潟は砂の町」で案内人となって活躍された様子や撮影のこぼれ話など大変興味深いお話がいっぱいでした。また、新潟は、角田から村上まで東西約七十キロ、内陸は江南区まで約十キロに渡って、大河信濃川に育まれた「砂の町」であることを再確認できました。「港町新潟」のよさに目を向けたふるさと創生や町おこしの取組に感銘を受けました。今回は、教育学部同窓会が計画

運営の担当となり、関係者の皆様から円滑に事業を実施していただきました。ありがとうございます。

三つは、待望の教職大学院がスタートしたことです。より高度な実践的指導力を備え、新しい学校づくりの有力な一員となり得る新人教員の養成と地域や学校における指導的役割を担うスクールリーダーの養成が始まりました。来年度以降も、多くの現職教員が教職大学院で学び、教育の理論と実践を通じて自らの課題を解決し、教職にふさわしい高度な専門性を身に付け、学校現場へ還元してくれることを期待しています。

さて、来年度から教育学部は、一部の課程が廃止され、百五十名減の二百二十名の教員養成課程のみの募集となります。また、大学院の修士課程の廃止や附属学校の整理統合の検討も進められていくようです。近年、少子化による学生数の減少と緊縮財政の波が我が母校にも押し寄せ、大学を取り巻く状況は厳しさを増しています。

しかし、そんな時だからこそ、私たち同窓生は母校がより充実発展していけるよう学部や学生を支援していかなくてはならないと考えます。同窓生同士の親睦と資質向上を図り、母校の発展に寄与できる活動をこれまで以上に充実していきたいと思えます。皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

## 風月鳥

愛犬と散歩しながら季節の風を肌で感じ、季節のにおいや風景の変化を味わう。  
 畑に植えられた野菜たちも元気がある。大根が大地から次第に盛り上がってくる様子は、生命力の強さを感じさせてくれる。

そんな中で、散歩をしながら、新しい家が少しずつその姿を変えていく様子を見続けるのも楽しさの一つでもある。

先日、新築アパートの建築が始まりました。土台となる基礎の工事からスタートである。土を奥深く掘り、型枠を組みコンクリートを流し込む。隙間がないように時々刺激を与え、隅々まで行き渡らせる。見るからにがっちりとしたつくりである。固めるのにも多くの日数をかける。何日も何日もじわじわと固めていくのである。建物本体を揺るぎなく支える基礎の完成である。やはり、基礎づくりはそう簡単ではないというのを改めて感じてしまう。

基礎は、目立つわけではなく、決して華やかなものでもない。しかし、その上を彩る様々なものを支える、極めて重要な役割を果たしていることは間違いない。教育でも、大切にしていかなければと自分自身に言い聞かせている。

(広報部副部長 金子義則)

新潟大学教育学部同窓会

第四十三回同窓生の集い

研修部副部長 小泉 慎子

九月二十四日、じよいあす新潟会館において「新潟の県民性、その歴史の系譜」と題して、新大の全学教職支援センター特任教授、新潟県NIE推進協議会会長の伊藤充先生よりご講演をいただきました。

一 記念講演会

(一) 開会の挨拶

白杵勇人同窓会長から、本同窓会が



講演会の様子

昭和三十一年に長岡公会堂で発会した経緯や、今年度設置の教職大学院についての話の後、講師の紹介がありました。

講師の伊藤充先生は、新発田市のご出身で、昭和四十九年に新潟大学教育学部をご卒業されました。卒業後、県内公立小学校、附属新潟小学校にお勤めになり、新潟県・新潟市の教育委員会で要職を歴任されるなど、長年にわたり新潟県の教育をリードされてきました。また、日本史がご専門で、県内各地の市町村史の編纂に携わり、「知っておきたい新潟県の歴史」「新潟の町と小学校の百物語」など著書も多数あります。

(二) 記念講演

はじめに、伊藤先生ご自身の経験から、「自分をつくづく相手に気を遣う性格である」と感じていること、「周りにも自分と同じような性格の人がたくさんいるのではないか」と気付いたことが、新潟の県民性について考えるきっかけとなったことが語られました。

次に、様々な統計資料や過去の文献に登場する新潟の県民性に関する記述から、新潟県人の姿を浮き彫りにしていきました。例えば、離婚率が全国最下位であること、NHK受信料支払い率が三位であることなどから、「忍耐強く責任感が強い」ことが指摘されました。それを裏付けるように、過去の文献には「生真面目」「誠実」「思慮深い」「粘り強い」「堅実(実利的)」などの記述が数多く見られるそうです。

さらに、このような県民性が、どのようにして培われてきたかを「政治史」「社会・生活史」「文化史」など縦割りの視点から、歴史的に分析していきました。そして、長い間、他所(県外)から来た人々からの支配を受けてきたことが、県民性に大きな影響を与えているのではないかとまとめられました。あの越後人の象徴であるかのような上杉謙信でさえ、出自は神奈川県であると聞きとても驚きました。

最後に、「県民性を考慮して、教育施策を考え実施すること」「教育の力で、よりよい県民性を創造していくこと」が大切であると締めくくられました。

二 懇親会

講演会の後、懇親会が行われました。参加者は、昨年よりも多い四十四名でした。

- (一) 開会の挨拶 白杵 勇人 会長
  - (二) 祝辞 鈴木 賢治 学部長
  - (三) 乾杯 中川 幸次 顧問
  - (四) 懇親会
  - ・伊藤充様からのご挨拶
  - ・新潟大学アカベラサークル 「ミューズ」の発表
  - (五) 万歳三唱 斎藤寿一郎 顧問
  - (六) 閉会の挨拶 高橋 和人 副会長
- 六十二年にも及ぶ、歴史のある教育学部同窓会です。来年もたくさんの方の皆様から参加していただきますようお願い申し上げます。

第43回同窓生の集い



# 会員の広場

## 三十年ぶりの再会



三桑市立一ノ木戸小学校  
五十嵐 晃

九月、新採用の時に担任をした子どもたちが、保護者も子どもも参加OKという同級会を開催してくれた。新採用の三年間、四・五・六年と持たせてもらい、子どもたちの卒業と共に転勤。それ以来の再会である。三十年ぶりの再会に期待と不安を抱いて受付へ。私の頭の中にある子どもたちは、立派な大人に変身していた。アルバムを手に入付をする男子二名と顔を見合わせ大笑い。「○○だよ。面影があるね」○は、感じが変わったね」等、三十年前に一瞬にしてタイムスリップ。開宴と同時に昔話に花が咲いた。「先生、あの時、先生が言ってくれた…」先生、△△のこと覚えてますか」不思議なことに顔を見ると名前とエピソードを思い出す。教え子たちと話をしている、自分自身の教職歴を振り返ると共に、情熱と希望を持ち夢中で取り組んできたことに自信が持てた一時となった。あつと言う間に時間が過ぎたアットホームな会。教え子たちに感謝である。

## 私の授業の強み



新潟市立松浜中学校  
山口こころ

大学時代、家庭科教育を専門に学んでいました。二回の教育実習も家庭科で行い、卒業論文も家庭科教育について書きました。家庭科は実際の生活に関わることがたくさんあり、題材選びや提示する資料が大切だと感じました。教育実習では、授業準備に時間をかけ、子どもたちの興味を引くものを選ぶようにしていました。キーワードになる用語や写真の掲示物を作ったり、話し合いなどの班活動を取り入れたりと授業を工夫して組み立てるように心がけていました。いきいきと活動する子どもたちが忘れられません。最初は好きではなかった家庭科の指導も面白くなってきて、好きになりました。

しかし、私は数学の教員として採用されました。今年度の数学の公開授業では、図形の掲示物や話し合いの方法を工夫しました。ここでも教育実習同様、準備が私の授業の強みだと感じました。これは、大学時代での学びがあったからです。教科は違っても、やることは同じ。そんな私は今、家庭科の授業も担当しています。

## 対応力



南魚沼市立城内中学校  
前田 友晴

大学時代は、体育科の授業や行事、またテニス部の仲間と冬にはスキーをするのが当たり前だった。教員になってからも十年くらいはスキーをしていたが、ここ二十年くらいは足が遠のいていた。

この度、南魚沼市の学校に勤務することになり、授業でスキーを久しぶりにした。話でしか聞いていなかったカービングスキーで滑った。私が滑っていた時代とは違い、自分の背よりも低いにはびっくりした。そして、滑ってみてまたまたびっくり。とにかく曲がる、曲がる。止まる時に曲がり過ぎて何度も転んでしまった。やめてもよかったのだが、何回も挑戦している自分がいた。そして、だんだんと思っただように滑れるようになってきた。

教員になって二十年が過ぎたが、いろいろな場面で対応しなければならぬことが多かった。これから更にそんな力が求められる時代がやってくる。失敗を恐れずに挑戦していきたい。

## うれしい時間



新潟市立満日小学校  
田中 正栄

昭和六十三年三月に新潟大学教育学部を卒業した。早いもので、教員になって今年で三十年になる。若い頃は、大学時代の友人と顔を合わせることも多くあったが、時が経つにつれ、お互いの仕事の忙しさもあり、大勢で集まる機会は減っていった。

そんな折、一昨年の夏に久しぶりに当時の複数のメンバーで顔を合わせる機会ができた。大学当時の話題で盛り上がり、翌年も…という話になり、去年の夏、さらに多くのメンバーで集まることができた。卒業後、三十年も経つというのに、タイムスリップしたかのように当時の感覚がよみがえってくる。若くして他界した大切な友の話題も多く出され、まるで彼が同席しているかのような感覚にもなった。

公私にわたり忙しい日々が続く中、年に一度でも、こうした時間が取れることが大変うれしく、大学時代のありがたさを改めて感じている。今年も、こうした時間が作れたらうれしい。

学校紹介

①

学校・保護者・地域の協働力で  
郷土愛とたくましさを育む

柏崎市立鯨波小学校

当校は、「海」（日本海と鯨波海岸）、「山」（別名「越後富士」と呼ばれる霊峰米山）、「川」（鮭の命の遡上が丸見え谷根川）の大自然がまるごと揃う豊かな環境に恵まれています。児童数三十四名、四学級の極小規模校です。当校では、この豊かな環境と人材を生かしてふるさとへの愛着と誇りに根ざした郷土愛を育みながら自分の未来をたくましく切り拓く子どもを目指した教育活動を行っています。

一 目標と方策を生み出す「語る会」  
学校説明会や学校評議員会など既存の会合の拡大版として、学校職員と保護者、地域住民が鯨波の子どもたちに対する願いや願いを実現するための方策を話し合う場を年二回定期的に設けています。そこで、話し合われたことが、学校の教育活動や地域ぐるみの活動として実現していきます。



鯨波小学校を語る会

二 地域の人々と願いと行動を共有する  
当校の谷根地区には、女子美術大学の学生とタイアップして山あいの暗闇に手作りのあかりを灯す住民手作りのイベント「たんねのあかり」があり、市内外から多くの人が訪れます。全年齢が、生活科や総合の学習で、谷根の方からイベントにかける願いを学び、谷根の人たちと力を合わせながらイベントを楽しみ、成功させようと学習を進めました。みんなで手作りのあかりを作り、PR活動で使ったり、イベントで飾ったりしました。保護者の方からも協力してもらい、一緒にあかりを作り、休日の夜のイベントに参加しました。



柏崎駅PR活動

学習発表会では、活動で得た感動を劇にして保護者や地域の皆さんに発表するとともに、谷根の魅力をパンフレットにまとめてお世話になった方に届



提灯行列

けたり、公共施設に展示してもらったりしました。  
これらの活動を「地域教育プログラム」として、指導計画に位置づけるとともに、来年度は、鯨波地区を中心にして郷土愛を育む教育活動を進める予定です。  
三 地域住民による放課後子ども教室  
校区には柏崎市内で唯一児童クラブがありません。語る会で、子どもたちの放課後の居場所を作り、学校ではできない活動の楽しさを味わわせたいと話し合い、教育委員会の支援を受けながら地域住民の方が、放課後子ども教室運営協議会を立ち上げ、運営見守りボランティアを募り行っています。  
児童クラブと違い、週一回月曜日の放課後に行われる教室には、誰でも自由に参加できます。探鳥会や魚取り、ちぎり絵教室など校区の自然や文化、人材を生かした活動が行われ、学校教育の枠を超えて郷土の魅力に触れることができます。



魚取り教室

本校に勤務する四名の新潟大学教育学部同窓生が「地域教育プログラム」の企画運営と「放課後子ども教室」の立ち上げに活躍しています。  
(文責 長谷川正人)

平成二十八年  
会務報告

平成二十八年

4・5 入学生保護者懇談会 (学部大講義室)

4・20 平成27年度会計監査 (じよいあす新潟会館)

5・7 第一回本部会 (新潟教育会館)

【評議会に向けての議案審議決定】

○懇親会(新旧役員)

6・11 評議会(新潟教育会館)

【平成27年度会務報告・決算報告・役員承認】

【平成28年度活動の重点・専門部活動計画・予算承認】

○学科代表者会・支部長会

7・20 教育新報「第171号」発行

8・27 役員会議(じよいあす新潟会館)

\*正副会長・専門部長・研修部による打合せ

【同窓生の集いの打合せ】

【全学交流会の記念講演の打合せ】

学校紹介

②

地域の人や自然から学ぶ  
〜学びのフィールドを外に求めて〜

関川村立関川中学校

戦後の日本教育の「六・三・三制」を先導するために文部省から指定された実験校「関谷学園」が設立された地である関川村。平成十七年に村内の二校を統合した関川中学校は、創立十二年目になる中学校です。関川村も少子化が進み、開校当時に比べ生徒数は百人減少。現在は百二十七名の小規模校です。

当校の生徒は、豊かな自然の中で、多くの地域の人たちとのかかわりの中で育ってきています。このようなことから、学びのフィールドを校外に求めて実施しているものが多くあります。その中から、いくつかを紹介したいと思います。

一 九の郷ウォーキング

他校でも同様のウォーキングがありますが、当校では村内の豊かな自然を感じることと、グループの仲間と協力し合って完歩することを目的としています。「九の郷」は、村内の九つのコミュニティを指します。村に住んでいるとはいえず、普段の生活では村内をゆつくりと歩く機会はありません。これ



まで見たことがない風景に出会い、ボランティアで参加して下さった保護者の方や、沿道で声をかけてくださる地域の皆さんとのふれあいは、生徒の豊かな心を養う一日となっています。

二 大したもん蛇まつり

このまつりは昭和四十二年八月二十八日に発生した羽越大水害と村に伝わる「大里峠（おおりとうげ）」という大蛇伝説をテーマに、昭和六十三年から村民のまつりとして行われています。メインイベントの大蛇パレードに登場する大蛇は、八十六のパーツからなるもので、世界一長い蛇（八二・八メートル）としてギネスブックに認定されています。生徒はこのパレードで大人に混じって大蛇を担ぎます。地域の方と一体感を感じ、郷土愛を高め、村の後継者としての自覚を強めています。

三 感謝の心を伝えよう「おもてなし」  
今年度初めて実践した活動です。地域の方から水田をお借りし、JAの皆さんのお力を借りて、もち米を収穫しました。このもち米を使って、団子やおこわ、お汁粉やおはぎを作りました。調理法は地域の方から習いました。これを「おもてなし料理」と名付け、村の農林業まつりの日に、日頃からお世話になっている保護者や地域の皆さんに、感謝の気持ちを込めてふるまいました。観光客も多く訪れる日でもあるので、料理の他に、手作りのストラップ、コースターなどのプチお土産と学校PRカードもお配りしました。生徒は、元気なあいさつや丁寧な対応を心がけながら調理した料理を手渡しました。

「ありがとう」「おしかった」という言葉をかけていただき、かえって生徒の方が大きな満足や喜びを感じることができました。日となりました。



関川中学校は創立から十三年目に入ります。干支にたとえれば、ひと回り。新たな一歩を踏み出す年になりたいと思います。

(文責 今井 学)

9・24

第43回同窓生の集い  
(じよいあす新潟会館)

○記念講演

・演題 「新潟の県民性、その歴史的系譜」

・講師 伊藤 充氏  
(新潟大学全学教職支援センター 特別教授)

○懇親会

10・22

全学同窓会交流会  
(ANAクラウンプラザホテル新潟)

○記念講演

・演題 「路地から進化する「ふるさと新潟」

・講師 野内隆裕 氏  
(日岡山五合目館長)

\*今年度は教育学部同窓会が計画・運営担当)

○懇親会

平成二十九年

1・19

教育学部教員・職員と同窓会との懇談会  
(じよいあす新潟会館)

2・20

教育新報「第172号」発行

3・4

第二回本部会(新潟教育会館)

3・23

【平成28年度会務報告・各部署活動反省・会計執行状況】  
【平成29年度の活動方針・予算案】

卒業式・祝賀会

(朱鷺メッセ・東映ホテル新潟)

# 全学同窓会交流会報告

広報部部长 本間アユ子

平成二十八年度新潟大学・全学同窓会交流会が、十月二十二日(土)にANAクラウンプラザホテル新潟で開催されました。

今年度は、教育学部同窓会が計画、運営にあたることになり、全学同窓会理事及び運営委員の皆様を中心に尽力いただきました。

高橋姿新潟大学長の開会の挨拶後、日和山五合目館長の野内隆裕氏から「路地から進化するふるさと新潟」と題してご講演いただきました。

江戸時代、北前船の寄港地として栄えた「みなとまち新潟」の歴史を今に伝える小路の魅力に光を当て、



小路めぐりをしながら、そのよさがわかる案内板を自主制作し貼ったところからスタートされたそうです。案内板を増やし、地図も作ったことで、人々の目に触れる機会が増え、地域のまちづくりに大きく貢献することになったそうです。

そして、野内氏が中心となり、新潟

市と共同プロジェクトで始まった「まちあるきのしかけ 新潟の町・小路めぐり」が二〇一三年にグッドデザイン賞を受賞、翌年も連続で「みなとまち新潟のシンボル日和山」として受賞されました。ふるさとを愛し、その魅力を発信しながら倍増させていくバイタリティに圧倒される思いでした。プラタモリで案内人を務められた野内氏は新潟の人としての魅力も発信してただいたようです。

懇親会では、新潟大学の各サークル

が紹介され、それぞれの代表が活動状況報告を行うとともに、今後の活動への意気込みや、同窓会からの支援への謝辞も述べられました。



## 先輩の声

### 学科同窓会活動への参加と同窓会の発展

斎藤寿一郎 (二期)

全学同窓会報「雪華」(六号)に旧

新潟師範学校記念館が特集されています。同館は同校同窓会が児童の教育のために建設したのですが、現在は大学の「あさひまち展示館」として活用され、国の登録有形文化財ともなっています。様々な企画展が開催され、見学に行くように心掛けています。

同窓会の事業としての記念館建設は大事業で、難しいことと思いますが、その精神は忘れてはならないと考えています。現在、同窓会では会報に見られるように、大学や学生のための支援事業が行われていますが、注目すべきことと思います。知恵を集めて、さらなる充実を期待します。

さて、同窓会では各学科と支部は会の両輪と位置付けられています。昨年、私も所属する学科同窓会に参加しましたが、ともに学生時代を過ごした身近な仲間や先輩・後輩との出会いがあり、旧交を温め、心が和む一時でした。しかも、学習指導を含む実践報告が二本企画されました。私にとってはとうに過ぎ去ったことですが、刺激を与えられ、できるものならば参考にしてみたい

という思いに駆られました。

他の学科でも同様かと思いますが、学生の方も参加され、有意義な機会になったのではないかと推察しています。学科同窓会の学生との協働は多様な場面があると思いますが、その一つとして継続してほしいと願っています。活動を充実させるためには、大学の先生の協力が欠かせません。大学と同窓会のコミュニケーションを深める場としても有効ではないかと考えます。

参加者は必ずしも多くはありませんが、継続して実施することが肝要で、地道な活動が徐々に実を結ぶものと確信しています。

幹事の方々の企画・運営に感謝するばかりですが、先ずは毎回の参加を心掛けています。

終わりに、言わずもがなですが、活発な学科同窓会活動と、それを支える同窓生がより多く参加することにより、同窓会発展の基盤が強化されると思っています。



## 教育学部との懇談会

教員志望の意欲向上を図る  
大学と教育現場の連携のあり方

交流部副部長 小泉浩彰

一月十九日(木)、新潟市中央区じよいあす新潟会館にて、『新潟大学教育学部教員・職員と同窓会役員との懇談会・懇親会』が行われました。毎年、同窓会交流部が企画・運営する事業で、今年度も多くの方々にご参加いただき、相互の願いや今後の方向性を共有する有意義な会となりました。

学部からはご多用の中、鈴木賢治学部長をはじめ十一名の教員・職員の方々からご出席をいただきました。同窓会からは、臼杵勇人会長以下十六名が出席しました。

懇談会では、臼杵会長より、大学から派遣された学生が各学校で教育活動の充実に寄与している等の開会の挨拶がありました。

鈴木学部長より、次の七点についてお話をいただきました。

○平成二十八年まで教員就職率は概ね六割台を、正採用数は八十人台を保っている。全国では二十二位、国立

大学の中では十二位である。

○新潟県や新潟市の採用数が減少し倍率が高くなっており、臨時教員採用を希望している学生も多い。

○教員養成フレンドシップ事業や地域連携事業を実施して、これからも伝統と信頼関係を築いていきたい。

○昨年十一月に教育公務員特例法、教員免許法が改正され、平成三十一年度入学生から実施する新たなカリキュラムを立案検討している。

○工学部の改組により「人間支援感性科学」が新たに設けられ、音楽、美術、健康スポーツ科学の人材が育成されることになった。

○二十九年度から修士課程募集は停止となり、教職大学院のみ募集となった。

○教職大学院に興味のある方は、左記教育フォーラムへ参加してほしい。

日時 三月四日(土) 九時三〇分  
会場 新潟大学教育学部大講義堂

その後、同窓会の各専門部(研修・広報・組織・交流・事務局)から今年度の事業概要の報告を行いました。

その後、教員志望の意欲向上を図るための方策について意見交換や提言がなされました。(学：学部 同：同窓会)

【教育実習や学習支援ボランティアで】学：推薦で入学した学生も実習を終えると教員志望の割合が減少する。

同：実習へ行って現場の大変さを実感したのかもしれない。人間性やコミュニケーション能力を実習を通して高めさせていきたい。

同：学習支援ボランティアで派遣された学生が実習を通して意欲を高めた。新潟市に採用された例があった。

【カミングホームデイの開催】学：卒業後すぐの頃に同窓会主催で会員相互の親睦や在学生と触れ合う場等を設けてほしい。

同：六月頃に卒業生を対象に集う機会を検討したい。

最後に本間正人副会長から、厳しきときだからこそ同窓会として母校の発展のために充実した活動に取り組みましょう、という挨拶で懇談会を閉じました。

会場を移動しての懇親会は、臼杵会長の開会の挨拶、八坂剛史副学部長からの乾杯のご発声で開宴となりました。懇談会で出された教育学部の現状や

これからの教職大学院への期待などを語り合い、学部と同窓会との懇親を大いに深めることができました。

柴田透副学部長から、学部と同窓会の更なる発展への思いを込めて、万歳をいただきました。

最後に、本間正人副会長より挨拶があり、一層の連携を確認し閉会となりました。



# 大学のコーナー

## 教育学部で大切にしていること

副学部長 岡野 勉

教育学部では、科学・技術・芸術の研究成果に立脚した教員養成を大切にしています。そもそも、大学に教育学部、特に教員養成を主要な目的とする教育学部が設置されているのは、大学

における学問研究の成果を、学校教育を通して、広く国民に還元するためです。教師はその重要な担い手です。学生諸君には、関心の対象を、狭い意味での「教え方」に視野を閉ざすことなく、各教科を基礎付けている多様な学問領域から幅広く知見を摂取すること、そして、その中から、将来、教壇に立った時に、子どもたちに「教えたいこと」、「伝えたいこと」を見出すことが期待されています。そのような内容が発見された場合には、はじめて、「教え方」について考えることが可能になります。

教育学部では、教員養成フレンドシップ事業推進室が中心となって、「教育実践カリキュラム」を企画・運営しています。これには、附属学校園を初めとして、新潟市・新潟県内の多くの

学校園、教育団体・施設からのご協力を頂いています。最近では、佐渡島をフィールドとした実習科目（通称「佐渡実習」）を新設しました。

このカリキュラムでは、一年次から四年次まで、体験、観察、参加、実践、研究等、学部四年間の各学年次に相応しい方法によって、学校、地域における教育実践の現場と関わる事ができます。かつて、教育実習カリキュラムは二年次、三年次に配置されるに止まっていたましたが、その時期からは大きな様変わりを見せています。学生諸君には、学部在籍中の四年間という限られた時間内においてはあります。また、個別的・経験的な性格は否定できませんが、教育実践の現場に身を置かなければ学ぶことのできないたくさんのこと——学校の役割、教師の仕事、子どもの実態等を学んでほしいと願っています。それは、教員志望の再検討においても、教師としての適性判断においても、重要な材料になるはずで

このように、教育学部では、教職と

教科に関する学びを通して、理論と実践、二つの側面から、教師としての基礎的な見識と力量の形成を図っています。

筆者は、学部共通の科目として、「教職入門」、「教育方法・技術」、「教育課程論」等の教職専門科目を担当しています。また、学校教育学専修に教育内容・方法研究室を開設し、「教育内容・方法演習」、「卒業研究」等の専修専門科目を担当しています。最後に、その一端を簡単に紹介します。

一口に「教育内容・方法」と言っても、あるいは「教育課程」と言っても、たくさんある教科、教育内容に関連する大変幅の広い領域です。筆者の研究室では初等数学を主要な領域としながら、言語、自然、社会、環境等の諸領域にも対象を広げています。昨年度は、分数のわりざんはどうして、「ひっくりかえしてかける」のか、という問題に、一年間、取り組みました。計算規則だけでなく、それが成立する根拠・理由を、計算の意味と関連付けた形で理解することが重要です。「なぜ? どうして?」という疑問は、数の世界だけでなく、自然・社会のしくみを解明するための出発点です。

### 事務局だより

#### ◇お詫びと訂正

先の「教育新報第171号」の記載に次の誤記がありました。深くお詫び申し上げます。

#### <正誤表>

- 1 P 1・2段目・1行目  
(誤) 務めせて (正) 務めさせて
- 2 P 6・一般会計決算報告・残高の部  
(誤) 平成28年度総合会計に (正) 平成27年度・
- 3 P 6・総合会計決算報告・残高の部  
(誤) 5,2846,686円 (正) 52,842,686円

#### ◇新潟大学カードの加入申込について

- 卒業生の方は、教育学部同窓会へ
- 在学生の方は、全学同窓会へ
- ※加入申込は、随時受け付けております。

#### 編集後記

関係の皆様からのご協力により教育新報一七二号をお届けすることができ、感謝申し上げます。会員の皆様の声を載せていきますので、情報等ありましたら、事務局までお知らせください。

